

令和 7 年 6 月利府町教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 令和 7 年 6 月 1 9 日（木）
午後 1 時 0 0 分から午後 2 時 0 0 分まで
- 2 開催場所 利府町役場 第 1 会議室
- 3 出席委員 村 松 淳 司 委員（教育長職務代行）
高 田 修 委員
坂 下 咲希恵 委員
小 島 優 子 委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明のため出席した者 教育部長 阿 部 昭 博
教育総務課長 小野寺 厚 人
生涯学習課長 古 澤 晃 一
総務学事係主査 安 住 真紀子
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 令和 7 年 5 月定例会会議録の承認
原案のとおり承認。
- 8 本定例会会議録署名委員の指名
高田委員と小島委員を指名。
- 9 一般事務事業報告及び事業計画
（説明者：教育部長）
資料に基づき説明。原案のとおり承認。
- 10 専決処分報告
報告第 1 0 号 令和 7 年度利府町一般会計補正予算について
（説明者：教育総務課長）
資料に基づき説明。原案のとおり承認。

1 1 報告事項

(1) 令和7年度6月定例議会一般質問について

(説明者：教育総務課長)

資料に基づき説明。

高田委員

学校選択制に関して、私立学校だと教職員が固定されているところが多いので選択があるが、公立学校の教職員が入れ替わりすることから、どういう選択の意味があるかがわからないが、その辺は教育委員会としてどのように考えられているか。

教育総務課長

議員の質問の趣旨としては(1) (2) (4) (6)、こちらについては菅谷台小学校、(3)と(5)については町全体というような認識である。

高田委員

要するに菅谷台小学校の生徒数が少なくなってきたことから、他の学校に転入したいという方が出てくるだろうということか。

教育総務課長

どういう意図かはわからないが、須田議員さんも利府町に学校選択制が合うのかどうか、自分でも合うと思っているわけではないというようなお話もあった。須田議員さんとしては、都心の方だと歩いてどちらにも行けるとか、人口密集地区においては選択制も有効と思っているというようなお話があったので、二小の建替、菅谷台小学校の児童数減少ということもあって、町でそもそも検討しているのかというような質問の趣旨だと思う。

高田委員

塩釜の浦戸小学校、特徴的な学習や学校経営を展開しているところがあるが、これだけ小学校の児童数に極端な差が出てくるとすれば、どこか特徴的な学校を町として作っていくというようなことも視野に入れておいたほうがいいのか。

また、今の質問と次の聞き取り困難症等の障がいに向けての対応だが、最近の視覚障がい、識字困難の方について、遺伝子解析で、遺伝的な病気だとわかってきた。病気として、障がい者として、識字困難だけではなく、聞き取りもそうだと思うが、先日、研修会で、あるお母さんの話を聞いてきたが、子どもが大学を探して試験を受けるときに、パソコン使って、自分で入力して印刷して出すというのを認めてくれた学校があったと。説明して、合理的配慮を先生方がしてくれると、一緒に公平性をもって、障がいを持っている方も学習に取り組むことができるというお話をしてくださった方がいて、これから障がい者に向けて教育、教

育現場として対応していくには、どういう配慮したのかという合理的配慮について、この人に対する合理的配慮は何かと明文化していかないと、ここに書いてあるように「言葉を聞きやすく先生が努力する」とかそういうことでは収まらなくなっている可能性がある。ぜひ対応を考えていただきたい。そのときは、珍しいことなので、メディアが入ったそうである。試験を受けているところに行って、パソコンで試験受ける姿を録画している最中に、メディアは「ずるい」と思いませんかと他の子どもたちに聞いた。そしたら、「何がずるいの」と他の子どもたちから、この子はこういう障がいを持って、これで私たちと一緒に勉強しているのだから全然ずるいなんて思ったこともないというふうに反応が返ってきた。「ずるい」と思うかどうかは、周りの大人の反応で決まってくると思うので、ぜひ検討してほしい。

教育総務課長

議員が今回質問の意図としていたのは、そういった障がいがあるということを教職員、役場職員もお子様も含めて、認識して欲しいというのがまず1点である。それに対する答弁としては、研修のときに、教職員の方にこういった障がいがあるとお互い認識し合うような形でしていきたいと答弁した。議員によると、大体人口の1%ぐらいにこのAPDの方がいるのではないかという調査があるということだったので、実際学校にも今いるのではないか、またこういった障がい世の中に認知されてきて、自分はもしかしてこれだったのではないかと思う方がいるということがあるので、お互い認識し合えるようにして欲しいとの質問であったので、先ほど申し上げたような答弁をしたところである。

高田委員

例えば、聞き取り困難であれば、あらかじめプリントを作っておいて、内容を渡して、視覚的な刺激とあわせて聞き取りさせると能力がステップアップしていく。その辺の対策、対応を先生たちが合理的配慮として考えてくれるのかというところが、次のテーマになってくる。まず知ることで知識をもらうことは大事だが、今度この対策をどうするか検討してほしい。

教育総務課長

一般質問、1件抜け落ちていたので、追加でお話する。生涯学習課の関連であるが、高久時男議員さんの方から荒川静香さんの記念モニメントの設置について質問があった。寄付に至った経緯を説明して欲しいというところが1つと、寄付の申し出はいつだったかという質問である。教育委員会で答弁したが、一番と二番については関連があるので一括して答えている。昨年12月に今回寄付をいただいた成和産業株式会社様

と情報交換を行ったところ、モニュメントが話題となり、町が掲げるスポーツの町を推し進めるために、荒川さんの功績をたたえ、次代を担う子供たちのチャレンジ精神や夢や希望を育てたいという町の方針に賛同いただき、企業版ふるさと応援寄付、現物の寄付に至ったということを答弁している。今回モニュメント設置を契機に、荒川さんの功績を改めて後世に伝えとともにリフノスの新たな記念スポットになるものと考えている。これからも多くの来館者に親しまれシンボル施設として成長を続けていけるように努めて参りたいと考えていると答弁している。

（２）文化交流センター「リフノス」の実績報告（令和６年度第３・４四半期）について

（説明者：生涯学習課長）

資料に基づき説明。

高田委員

長期休暇こども宿題お助け教室は、以前から実施していたのか。

生涯学習課長

以前から実施。それぞれ中身については４６ページ記載のとおり。

高田委員

結局全員２５人参加したのか。募集は学校か。

生涯学習課長

確認する。リフノスの独自事業だと直接やっている場合がある。

高田委員

事業を知らないで応募しなかった、わかっていれば応募したかもしれない人が漏れているかもしれない。良い取り組みだと思う。

（３）仙台北地区中体連総合体育大会結果について

（説明者：教育総務課長）

資料に基づき説明。特に意見なし。

（４）各小・中学校の状況について

教育長職務代行委員

報告事項（４）各小中学校の状況について、非開示情報が含まれるので秘密会とする。

１２ 事務局からの連絡事項

（１）令和７年７月定例会の開催について

教育総務課長

事務局からの前に、私から報告させていただく。まず1点目、イングリッシュキャンプ事業について、昨年度森郷キャンプ場で行った事業であるが、今年度も8月5日・6日を予定している。募集は締め切ったが、30人定員のところ32人の申し込みがあり、キャンプ場の方で2人オーバーでも受入可ということであったので、皆さんに参加していただくように動いている。利府小学校が16人と多く、二小7人、三小1人、しら小2人、青小0人、菅小6人で、32人である。

もう1つ、今年度からの事業として、ブリティッシュヒルズ、福島での事業であるが、一度募集を締め切ったが、定員20人のところへ11人の申し込みがあった。枠があるので、再募集をしたところ、3人追加で申し込みがあり、合わせて14人の申し込みがあった。内訳としては、利府中2人、しら中3人、西中8人、町外の方が1人（県立中学校1人）である。

高田委員

英語の事業が導入されてしばらく経つと思うが成果はどうか。インターナショナルな子を増やそうと肝いりで始まった事業だと思うが、その後、英語を話せる子どもたちのパーセンテージは増えているのか。

教育総務課長

イングリッシュキャンプは昨年度、ブリティッシュヒルズの方は今年度からなので、特に統計も取ってはいない。全国学力調査、町独自で行っている学力調査があるので、そこで英語の数値が上がってくれば良いと思うが、何度かこの場でもお話しているが、学力調査となると、全体的な底上げ、平均的な底上げが必要となってくるが、今申し上げたイングリッシュキャンプとブリティッシュヒルズ等については、どちらかという意欲のあるお子さんがさらに伸びるための事業というふうに捉えている。そちらはそちらで、どんどん進んでもらって、全体的なところも教職員の研修等を行い、授業力の向上につなげて、全体的な底上げ、基礎的な学力の向上に繋がってほしいと思っている。ALTの先生も今年度から3人から4人に増員している。

高田先生

目に見えて、即効性のある数字としてあらわれると、利府町のことだけに限らず、国全体としてインターナショナルになってきたのかと、効果があったのかと気になっている。

教育部長

課長がお話したことと重複するが、イングリッシュキャンプやブリティッシュヒルズについて、すばらしい試みだと思う。参加する子どもたちは、どちらかといえば学力の上の方の子が多いのかなと勝手に想像

しているが、この子たちが伸びるとさらに平均値は上がるわけだが、底上げのために大事なものは、全員が関わる授業である。授業は当然、子どもたちは一生懸命やる、やらなければならないが、授業を作り上げていくのはやはり教員。そうすると教員の指導力向上というのが、全体の底上げのためには大事になってくると思う。そのために研修やお互いの授業研究は当然必要になってくると思う。その授業づくりと、このような企画、イングリッシュキャンプやブリテッシュヒルズの二本立てが必要になってくると思う。

事務局

次回、7月定例会は、令和7年7月30日（水）午後2時30分開催となる。

13 閉会